

神戸市立鷹匠中学校 学校評価報告書

校園長名 佐々木 一弘

学校の 校 目 標	誰もが楽しく学び、安心して過ごせる学校 美しく整備され、安全で学習環境の整った学校 保護者・地域に信頼される開かれた学校
--------------------	--

内容		重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育 て たい 子 ど も の 姿	自ら考え、主体的に学び行動する生徒					
	思いやりが深く、友人を大切に し、自他の生命と人権を大切に する生徒（友愛）	生徒の状況に応じた題材の設定等を行 い、道徳教育の充実をはかる。 自己有用感を高める働きかけを積極的 に行う。	3	(教職員:3.1) (生徒:3.3) (保護者:3.3) 各学年指導の重点を設定し、計画的に道徳 教育を行った。各学年ごとに自己有用感の 形成を高める行事を設定した。	・生徒保護者共に3.2以上の評価に対し教職員の意識が少 し低いのが気になります。まだ、生徒の浸透に手ごたえを 感じていないのでしょうか。 ・大切にするという概念を根底にはきちんと持ってはいる が、その時の感情や雰囲気によって流されて相手を悲しませる行 動や発言が時折あると聞いている。この年頃ならではの事 だと思し、トライ&エラーであたかな心を持つ人に成 長して欲しい。 ・命の大切さを知るために「命は傷つくもの」であることを 教えるべきなのではないか。そしてそれを気があること に言い続ける必要があると思う。	生徒同士の交流を深める活動や、ボランティア活動を 通じて他者への思いやりを育む。生徒の状況に応じた 題材の設定を行い、道徳教育において人権に関する授 業やワークショップを開催し、生徒に人権の重要性を 理解させる。教師向けの研修を実施し、生徒に寄り 添ったコミュニケーションスキルを向上させる。
	ルールを守り、マナーを身につ けた礼儀正しい生徒（自治）	集団生活において共生共助の力を培え るように、各自に役割を持たせ責任を 果たせるように指導を行う。	3	(教職員:3.2) (生徒:3.3) (保護者:3.3) 生徒主体の委員会の取り組みとして、あい さつや時間を守るキャンペーン活動を行 い、生徒同士で声を掛け合っている。	・学校への行き帰りの生徒をよく目にするが落ち着いてい るよう感じます。 ・鷹匠中の集団・生徒として行動が出来ている時には礼儀 正しく、きちんとしているが、ただの群れになった時には ただの人になっていることが多い。(こちらが思っている より鷹匠の看板は大きく、窮屈に思え、その反動もあるの かもしれない。) ・「共生共助」実により言葉であるので、その内容をもっ と生徒たちに浸透させてもらいたいと思う。	基本的な挨拶、言葉遣い、身だしなみについて、教師 が自ら模範となる行動を示す。集団生活から個々の生 活に戻った時に実践できる力を身に付けさせる。地域 の一員であることの自覚と責任を育成し、地域で愛さ れる生徒の育成する。
	意欲的に学び、よく考え、主体 的に判断して行動する生徒（責 任）	全国学調・神戸市学調の分析を行い、 弱点部分の克服に重点を置いた「グ ループワーク」を効果的に取り入れる 授業を研究する。	3	(教職員:3.1) (生徒:3.3) (保護者:3.2) 全国・神戸市学調の結果を分析、課題と今 後について10月の学校だよりで公表した。 課題克服に向けた授業実践を行っている。	・生徒が課題を達成した時、充分ほめてあげてほしい。生 徒の自信に繋がると思います。 ・トライやるウィークでの仕事を実際に拝見する機会 があり、本当にこのスローガンの通りに頑張っていた。加 えて、意欲や責任感を待ち合わせていて、普段から意識の 高い取り組みが出来ていると感じた。 ・正直、「責任」という科目の中に教育（勉強）内容が含 まれるものなのか疑問をぬぐいきれない。責任は責任とし てその内容を取り組みとして入れるべきでないのではな いか。教育内容は学校としては与えることはできないので あるから、別の欄を作り、そこで取り組みを記すべきでは ないか。	総合的な学習の時間を活用し、探究学習や問題解決学習に 取り組み、自分で課題を設定し、解決策を考える力を養 う。また、自主的に課題発見ができるよう、各教科の授業 において、生徒自身が学習の進捗や成果を評価する機会を 設ける。その成果を教師が認めることにより、成就感を与 えたい。
全 市 ..	①いじめ防止対策に関する取組 み	毎週、いじめ問題対策委員会を開催 し、各学年ごとに、いじめ事案の有無 の確認及びいじめ認知後の指導・見守 りを継続して行う。	3	(教職員:3.2) (生徒:3.2) (保護者:3.2) 毎週いじめ問題対策委員会を開催でき、情報 共有・見守りができた。表面化しにくいSNSト ラブルの対応に苦慮している。	・友人間のトラブルが学校内でのものであれば学校側も積 極的に解決に向かい、サポートしていただいている。SNS 等が発端となっていると介入が難しいし、表面化しづら いゆえに根深いものになってしまうのでは危惧している。 ・友愛の欄に同じ。	これまで実施している定期的ないじめに関するアンケート を継続し、早期発見に努める。また、生徒が気軽に相談 できる窓口やオンライン相談システム等の情報を発信する とともに、生徒の見守りを継続する。重大ないじめ事案が 発生した場合、関係機関と連携して迅速に対応する。
	②不登校支援の取組み	「ふれあい教室」での教室復帰に向け た取り組みの充実をはかる。 生徒指導担当教諭を中心に関係機関・ 相談機関との連携を強化する。	3	(教職員:3.3) (生徒:3.1) (保護者:3.0) 不登校の要因が様々であり「ふれあい教 室」だけの対応では十分とは言えない。関 係機関には多数の生徒が通級している。	・不登校の要因が様々で学校側が動くことで解決できるも の、そうではないものに分類されるが、まずは寄り添い、心 を砕いている姿が容易に思い浮かぶ。ふれあい教室等、新 たな取り組みを取り入れて支援の質、良を向上させようと する意欲を十二分に感じた。 ・たいへん根が深い問題だと思っている。学校内だけで対 処できるものではない。現状をもっと世の中に知らしめる べきだと考える。	「ふれあい教室」での教室復帰に向けた取り組みの充 実をはかる。また、個々に抱えた特性に応じてサポー トができるよう「自校通級教室」を開設する。学校だ けで抱え込むのではなく、関係機関・相談機関との連 携を継続して行う。

的に推進すべきこと	③教職員の業務改善	部活動のあり方（活動の方法や期間）について検証をつづけ、職員の負担と生徒の達成感のバランスを検討していく。	3	(教職員:3.0) (生徒:3.2) (保護者:3.0) 電話対応平日18:00までをお願いしている。土日祝の部活動が、練習試合の場合に長時間になることが多い。	・現在の教職員の仕事量を考えると部活に手を取られるのは大変であるのは理解できるが、部活において生徒への声掛けはとても大切なものであるのではないかと思います、その機会がなくなるのは残念です。 ・平日の業務改善は少しずつ進んでいるように見受けられるが、休日の部活動や課外活動にまだまだ負担があるように感じた。 ・普段からのご苦労にただただ経緯を表したい。それこそ命を削るようなことは避けていただきたい。	教職員の業務内容を見直し、不要な業務や重複する業務を削減する。定期的なNO残業デーを定着させることで教職員の意識改革を図る。KOBOKATUへの移行に伴い、時間外の業務を廃止し、KOBOKATUに参加したい教師とのバランスを検討していく。
	④「すぐーる」の活用、ホームページにおける情報発信	ホームページの掲載必須事項を最新の状態に定期的に更新する。「すぐーる」でのリアルタイムでの情報発信につとめる。	4	(教職員:3.6) (生徒:3.5) (保護者:3.5) ホームページは、常に最新情報をアップしている。「すぐーる」は、内容を簡潔に分かりやすくを心がけた。	・より開かれた学校を目指して、日常生活や行事等、細やかに情報発信がなされている。保護者が主に目を通す「すぐーる」からワンタップでホームページに飛べるボタンやURLがあると尚良い。	ホームページの掲載必須事項を最新の状態に定期的に更新を継続する。また、「すぐーる」でのリアルタイムでの情報発信につとめる。「すぐーる」からワンタップでホームページに飛べるURLを年度初めに配信し、☆印でお気に入り登録してもらうことで、絞り込み検索ができるようにする。
	⑤学校生活のルールや決まり（校則など）について	校則検討委員会(生徒指導係会)において、現状（社会情勢等）に即したルールであるか定期的に検討を行う。	3	(教職員:3.4) (生徒:3.3) (保護者:3.3) 本年度、髪型に関するルールを大きく見直したが特に問題はなかった。生徒の意見を聞く場面が少なかった。	・適当だと思う。この世代の子どもたちが明るく元気に過ごせるものだと思うが、服装の決まり等が一覧になっていないわけではないので、解釈の一致に困っていることが多い。一覧の作成は“網羅する範囲が広いので難しい”と過去に聞いたことがあるが、具体化の機会を検討していただきたい。 ・人間とは、実にルールに守られていることを知っていなければ、ルールを自分たちの都合で捜査してしまう恐れも	校則検討委員会(生徒指導係会)において、現状（社会情勢等）に即したルールであるか定期的に検討・整理し、継続的に校則の見直しを実施する。決定した最新の情報を分かりやすく提示し、「すぐーる」や学校ホームページでも発信する。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある ※特記事項の数値は、評価者全体の評価平均値